(17)がん情報の収集と伝達

大阪府がん拠点病院ホームページからのイベント情報

大阪がんええナビ制作委員会　片山　環

「大阪がんええナビ制作委員会」のウエブサイトでは、がん患者の学習を支援する目的で、府下 60 のがん拠点病院のホームページからがんに関わるイベント情報を収集し、公開している。2012 年 4 月から 2013 年 3 月までのセミナーや公開講座などのイベント数は 150 件にも及び、その集計数の傾向や特徴は、府民にとってどのような利益・不利益があるか検討してみた。

（1）がん種別イベント数ランキング

乳がんを筆頭に、上位 5 位までは、五大がんが入っている。それに続くのは前立腺がん、子宮がんであるが、それ以外は極端にイベント数が少ない。つまり、希少がんの患者は、がん拠点病院の公開講座で学習する機会に恵まれていない。

（2）がん種別でないイベント数ランキング

患者へのケア・サポートがトップで、それにがんの啓発・予防・検診と続くが、全般的に闘病生活を支えるテーマが多い。副作用・緩和・食事などは、幅広い層へのメリットが期待できる。

（3）月別イベント数

4 月が少なく、2 月が多いのは、病院の年間行事の立て方の特徴だろうか。９月や2月の後半の土曜日には、各地で同じ日にイベントが重なることが多いので、要注意だ。

（4）２次医療圏別イベント数

大阪市には 23 の拠点病院があり、総イベント数が多いのは当然だが、平均すると１施設当たり年間 2.6 件となる。低いのは北東部の３医療圏で、豊能、三島、北河内である。南部の医療圏は平均値が高く、中河内、南河内、堺、泉州いずれも 3.0 件を越える。南部の病院は患者教育に熱心であり、地元のがん対策に関心が高いと言える。

まとめとして、地域差はあるものの、患者の学習支援に熱心な病院とそうでない病院の差は大きい。がん拠点病院だからこそ、一般府民への情報提供・学習支援の適任者である資質を活かしたイベントを企画していただきたい。